

七、応召前夜旅館などに宿泊する者は市中を徘徊するが如きは間諜に察知せらるるを以つて慎むを要す。

八、応召・入隊の挨拶状は絶対に、これを廃止すべし。

九、応召後の出勤など想像を逞しくし口外するは、絶対にこれを禁ずべし。

十、応召入隊後の通信は総て「はがき」を使用するを以つて封筒は不要

十一、応召員の鉄道乗車に際しては乗車切符は駅長室又は他の室にて求むべし。

応召員家族の心得

国際状況の緊迫に伴い応召軍人の行動は絶対に秘匿を要するにつき、左記徹底せられたし。

一、召集せられたることは濫りに口外せぬこと

二、応召出発前は本人をして後顧の憂いなからしむ如く家族全部充分に相談して仕途に就かしむること。

三、従来と異なり防諜の完璧を期するために応召を秘匿することは必要也、故に家族と雖も見送りは家庭前を最後とすること。

四、千人針は止める必要なきも只これを目立たざる所にて依頼されたし。

五、応召のため出発後は面会出来ざるものと承知し出発前に万事整

備すること。

六、応召後高く国旗を掲揚することは避けられたし。

故に応召員の武運長久を祈る赤誠を表す為に家庭内に於いて写真に對し国旗を掲げ置く方法を可とす。

以上は防諜上必要と認むる事項については絶対差し控えられたし。

注意

本心得書は、秘密事項につき家族以外の者に見せず、本人応召後直ちに焼却すべし。

当時の国内外情勢

一月、陸軍大臣、東条英機により「戦陣訓」が示達され、三月には国民学校令が公布され、四月には、米穀配給通帳制が施行された。

七月、南部佛印進駐、この時分から『隣組と常会』が実施され、町内会役員によつて「上意下達」の世になった。十月、第三次近衛内閣が総辞職し

東条内閣が成立した。九月、『帝国国策遂行要領』が決められ開戦準備が進められたが、日米交渉は停滞したまま解決の目処が立たなかつた。十二月、「……帝国陸海軍は本八日未明、西太平洋において、米英軍と戦闘状態に入れり」の、大本營発表が、ラジオのスピーカから流れ出た、当時は「大東亞戦争」と呼んだ戦争が始まった。